

vol. 04

令和3年度 第4号
(年間4回発行 通巻第162号)

組合活性化情報 中央会とくしま

特集

四国の元気な組合を紹介します！

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 04

令和3年度 第4号
(年間4回発行 通巻第162号)

特集

四国の元気な組合を紹介します！
～令和3年度組合資料収集加工事業から～

2

組合クロースアップ 第12回

徳島県木材買方協同組合

9



株式会社山文

12

組合ホットニュース

17

- ◎協同組合徳島県旅行業協会
とくしまイチ推し旅行コース投票キャンペーン
1位の表彰楯(MVP)授与式開催
- ◎徳島市両国本町商店街振興組合
「第16回両国えびす祭り」を開催

情報連絡員レポート

18

令和3年12月の景気動向

青年部コーナー

19

- ◎青年部活動トピックス
・2021年度組合青年部全国講習会
・第9回四国電気工事組合連合会青年部会員大会

女性部コーナー

20

- ◎女性部活動トピックス
◇とくしまレディース中央会◇
・鳥取女性中央会・とくしまレディース中央会オンライン交流会を開催

中央会トピックス

21

- ◎「中小企業合同ワクチン接種」に対する感謝状が贈呈されました！
- ◎ものづくり企業のための海外WEB商談会準備講座開催

中央会事務局職員

十人十色

22

- ◎組織支援課 係長 鮎合 吉彦

お知らせコーナー

23

- ◎電子取引データの保存方法をご確認ください

編集
後記



表紙絵

作者：徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹氏

タイトル：「四国霊場第八番札所 熊谷寺・山門の桜」

のどかな遍路道を行くと、緩やかな山の斜面に二層の山門（仁王門）が見えてきます。山門の前後の桜並木を抜けると、右に弁天池、左に庫裡、羅漢堂、多宝塔があり、階段を上がると昭和15年再建の本堂になります。

この仁王門は、江戸初期に建立されたもので、高さ12.3m、間口9mと四国霊場最大級の威風堂々とした姿は圧巻です。和様と唐様の折衷による趣で、徳島県の指定有形文化財になっています。



特集

四国の元気な組合を紹介します！ ～令和3年度組合資料収集加工事業から～

昭和57年度から全国中央会と都道府県中央会が連携し、環境変化に対応した共同事業などに先進的に取り組んでいる組合の諸事例を収集して、その活動や共同事業の手法などを他組合へ移転することを目的に、組合資料収集加工事業を実施しています。

令和3年度の収集テーマは、「A. 急激な事業環境変化に伴う対応・活動」「B. 労働環境改善・人材確保への取組み」「C. 地域の魅力発信による需要開拓」「D. 特徴ある活動」の4つを取り上げ、専門家の協力を得ながら詳細な調査・分析を行いました。本誌では、これらのテーマに取り組んでいる四国の先進組合事例の抄録を紹介いたします。

A 急激な事業環境変化に伴う対応・活動

香川県テントシート工業組合（香川県）

■住 所 香川県高松市春日町1606 番地13
■設 立 昭和47年 5 月
■出 資 金 1,040千円

■電 話 087-841-6045
■組合員数 13人
■主な業種 帆布製品製造業

キャッチ フレーズ

医療支援として特別
仕様 TENT を医療機
関等に寄贈し、地域
に貢献

事業・活動実現の キーファクター

医療支援として特別仕様 TENT を医療機
関等に寄贈し地域に貢献したことが、結
果として組合員の受注拡大に繋がり、知
名度もアップした。

1. 背景・目的

令和2（2020）年よりの新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、我が国の経済社会には未曾有の事態が生じている。感染拡大防止のため、イベント等の中止が相次ぐなど、組合は本来の活動ができていない状況が続いている。その折、医療従事者や災害救護を行う方々の苦勞を報道等で知り、組合として何か協力できることはないかと考えた。

2. 取組みの手法と内容

当組合では、組合員が取り扱っている TENT の特徴を活かした支援ができないかという想いから、ドライブスルー方式で行う PCR 検査センターで使用できる、遮光・耐紫外線・防炎性を有し、さらに抗菌処理が施されている「特別仕様 TENT」、そして、医療従事者用とお見舞いの方用の「防護服」を開発し、高松市や日本赤十字社香川県支部へ寄贈した。その結果、優れた機能性のため有効に活用されただけでなく、それまで取引のなかった病院より TENT の注文が舞い込み、組合員の受注拡大にもつながった。また、地元の新聞や香川



高松市へ寄贈した防護服

県中央会の機関誌内の「会員ニュース」で取り上げられ、地域や関係団体等への組合の周知度アップにも繋がった。

この取組みの結果、役員はもとより、一般組合員であっても、地域貢献ができたことは誇らしいとの機運が醸成されている。また、香川県とはすでに平成30(2018)年に「災害時における天幕等資機材の調達等に関する協定」を交わしており、コロナ禍は想定している災害とは様相が多少異なるものの、今回の対応により、地震等の災害時にはテントの供給が滞りなく行えるという印象を強められたように思える。コロナ禍が今後継続するようであれば、再び寄贈することも視野に入れている。



日本赤十字社香川県支部での贈呈式

3. 成果とその要因

今回の寄贈で、社会的に必要な貢献を果たすと、社会も存在価値を認めてくれるということについての認識が高まった。今後は「帆布製品製造技能士」検定の受検を組合として推奨するなど、組合員企業の個々の従業員のレベルアップを図り、良質な製品供給に寄与していきたい。

C 地域の魅力発信による需要開拓

徳島ビルメンテナンス協同組合（徳島県）

■住 所 徳島県徳島市昭和町二丁目56番地
■設 立 昭和49年2月
■出 資 金 21,000千円

■電 話 088-625-2360
■組合員数 14人
■主な業種 建物の維持管理事業

キャッチ
フレーズ

各関係団体と連携
し、地域社会貢献
へ取り組む。

事業・活動実現の
キーファクター

組合（役員、組合員、青年部、事務局）が
一体となり、目的意識を持ち、主体的に地
域社会貢献活動を実施している。

1. 背景・目的

不安定な経済情勢の中、中小企業組合を取り巻く状況が厳しさを増す一方で、中小企業組合は、組合員のための共同事業を実施するだけでなく、環境への配慮、地域社会への貢献が求められるなど、社会的責任に対する関心は一層高まりつつある。そこで、当組合は経営理念の一つである「地球環境への貢献」を念頭に、地域社会の一員であるとの自覚の下、各関係団体と緊密に連携し、「地域と時代が求めるビルメンテナンス」を丹念に追及していくことを目的に、清掃活動等の様々な取組みを行っている。

2. 取組みの手法と内容

当組合は、地域社会貢献への取組みとして、昭和55年から毎年社会福祉施設で清掃活動（ボランティア）を行い、令和元年12月の実施で40回目を迎えた。また、徳島県立特別支援学校の生徒の働きたいという思いを企業に知ってもらうことを目的とした「ゆめチャレンジフェア」開催の支援、障がい者技能競技大会である「アビリンピック徳島大会」開催の支援、災害時避難所の衛生確保に向けた県関係機関との連携啓発活動、産業教育支援など、多方面にわたり地域に根付いた各種活動を遂行し、関係団体をはじめ、



障がい児入所施設での清掃活動支援

地域社会に認められる団体として確固たる地位を確立した。

さらに平成29年12月より新たな試みとして、当組合、徳島ビルメンテナンス協会、徳島県、徳島県教育委員会、社会福祉法人徳島県社会福祉事業団の5団体が緊密に連携し、徳島県立特別支援学校の生徒を中心に据えた「学びと交流と施設快適化の創造」（5団体と障がい者が社会について共に学びながら交流することで社会福祉施設の快適化を目指すもの：地域社会貢献）を合言葉とする全国に例のない清掃活動を実施している。これらの創意と工夫を加えた実践活動の積重ねを基盤に、平成30年8月に5団体による「障がい者の就労支援活動に関する協定」の締結に至った。

なお、その支援活動の一環として、徳島県立特別支援学校の生徒が就労に向けた多様な経験を積むことができるよう、実際の職場で一定期間働く「就業体験」の場を提供している。



障がい者の就労支援活動に関する協定の締結

3. 成果とその要因

一番大きな成果としては、各関係団体と障がい者の就労支援活動に関する協定を締結し、これらを着実に推進するため、その都度各関係団体と意見情報交換を行い、これを通じて顔の見える日常性ある関係性を構築したことである。また、新聞や雑誌に取り上げられることも増え、業界の認知度向上を図ることができた。成功の要因は、各組合員が随時、意見情報交換を行うなどして地域を良くしたいという高いモチベーションを保ち、組合が一体となって取り組んでいることである。

企業組合花真珠（愛媛県）

■住所	愛媛県宇和島市伊吹町甲946番地2	■電話	0895-24-1577
■設立	平成21年6月	■組合員数	6人
■出資金	3,000千円	■主な業種	化粧品小売業

キャッチ
フレーズ

地元の真珠粉を使用
した化粧品を開
発し、販路を拡大

事業・活動実現の
キーファクター

「宇和島真珠の良さを伝えたい」との想いで組合員それぞれの立場で地道な営業活動を行い、支援機関や行政の支援施策も積極的に活用したことが、12年間継続できている鍵である。

1. 背景・目的

真珠の国内生産量4割を占める愛媛県の中でも、宇和島市はその主産地。真珠をテーマとした商品や観光メニュー開発で、交流人口の拡大、産業の活性化、雇用の創出を実現しようと、女性の地域おこしグループ「まちづくり Beppin 塾」の中でも美容関係者が中心となり、規格外真珠や真珠を育てる際に産業廃棄物として出るアコヤ貝殻を粉にした“真珠粉”を活用した、化粧品及びエステメニュー開発を真珠養殖事業者とともにに行った。

2. 取組みの手法と内容

当初活用した「地方の元気再生事業～宇和島市圏域活性化トライプログラム推進事業」で試作品としてパウダー入り石鹸を1,000個製造。1,000人にモニターアンケートを実施したところ80%の方から「良い」との回答を得たため、企画・販売のための法人「企業組合 Women's Nest」を設立（7年後に企業組合花真珠に名称変更）し、本格的に製造（OEM）・販売に取り組んでいくこととなった。



真珠粉

女性に化粧品を変えてもらうのはなかなかハードルが高いため、組合員が経営する店舗でエステ体験してもらう地道な取り組みを行いながら、パールエステティシヤンの養成も行った。現在は宇和島市内のほか、県内各地にエステの実施店舗が拡大している。また、中央会を始め各支援機関の事業を活用し、各種イベントや展示会に積極的に参加したことで認知度も上がってきた。現在では宇和島を代表するご当地お土産・エステとして各所で紹介してもらえるようになった。

製造コストを下げる工夫（容器に印刷からラベル印刷に変更）も実施。令和2年には中小企業組合等課題対応事業取引力強化推進事業を活用しパッケージやリーフレットをリニューアルするとともに、コロナ禍の自宅で利用しやすい低価格帯ラインナップも販売。

3. 成果とその要因

事業開始当初、設立資金をすべて商品開発につぎ込んだため、運営資金が無くスタッフはボランティア状態。資金面ではいつも課題があったが、現在は経営者視点をもつことの重要性を説く代表理事の土居氏（真珠養殖事業者代表）が「手綱をもつ人」、他の女性組合員が「走る人」との位置づけが組合員間で意識共有できており、それぞれの特性が生かされている。知名度も上がり周囲からは「町おこしはもういいよ」と言われることが多いが、目標売上1,000万円／年への利益追求（組合設立10年度に達成に近づいたがR2年度はコロナの影響で未達）も大事にしつつ「長く活動を続けていきたい」という想いが、事業の根底にあること。



手ごろ価格帯の「さくら真珠」シリーズ

D 特徴ある活動

観音寺市上市商店街振興組合（香川県）

■住 所 香川県観音寺市観音寺町甲3368番地
■設 立 平成2年8月
■出 資 金 1,720千円

■電 話 0875-25-3451
■組合員数 23人
■主な業種 異業種（小売業等）

キャッチ
フレーズ

GoTo 商店街事業の目玉として、DIY 軽トラテントを開発・販売

事業・活動実現の
キーファクター

GoTo 商店街事業の目玉として、DIY 軽トラテントを開発・販売、購入したユーザーがインフルエンサーとして活用シーンを動画投稿することで販促に繋がっている。

1. 背景・目的

観音寺市内3商店街（当組合、観音寺商店街振興組合及び観音寺市柳町通商店街振興組合）の連名で、「次世代型 WEB 商店街事業」として「令和2年度 GoTo 商店街事業」に申請し、その採択後にホームページ「観音寺 WEB 商店街」を開設した。当ホームページでは個店の紹介だけでなく、観音寺市内3商店街の総力を結集し、何か売れるものを作りたいと考え、気軽に楽しめるアウトドアレジャーとしてソロキャンプの人気の高まっていることに着目した。

2. 取組みの手法と内容

コロナ禍でも気軽に軽トラックを使用した DIY ソロキャンプが可能な幌をテント用生地を利用して開発し、令和3年5月に「DIY 軽トラテント can-on Gstyle（カンオンジースタイル）」として商品化した。商品名は「このスタイルなら何でもできる」、「観音寺発」の2つの意味を込めて名付けられた。おしゃれなデザイン及び安価に提供できるように必要最低限の機能に留め、雨漏りなどへの対処

という基本的な性能確保とキャンプ DIY の素材として自由にカスタマイズできる仕様の試作検討を何度も行った。

現在の販売単価は 22 万円（税別・送料別）だが、量産体制が整うと単価を下げられる可能性がある。軽トラの車種をスズキとダイハツの現行車種にほぼ限定し、注文を受けてからの納期もわりと長く、手作業で作成している状況で、車種の拡大、納期の短縮、テント用生地在庫管理など、量産体制に移行するまでにはかなりの解決すべき課題がある。

3. 成果とその要因

試用モニターや実際に購入したユーザーが、インフルエンサーとして活用シーンを YouTube に動画投稿することで、これを見た同好の士が問い合わせを行い、販売にまで至るという、従来の商店街での物販方法とは全く異なる方法を開拓できたことが大きな収穫であった。組合員の中には金物を販売している者もあり、軽トラテントのコラボ商品として、バーベキューセットを販売しようとする動きが出ている。また他の組合員も、従来の顧客とは異なる層に対する新たな販売手法などを模索し始めており、軽トラテントの成功は大いに刺激になったようだ。



DIY 軽トラテント製作風景



DIY 軽トラテント「can-on Gstyle」

四国 IT 協同組合（愛媛県）

■住 所	愛媛県松山市来住町1239番地	■電 話	089-906-8800
■設 立	平成25年 8 月	■組合員数	10人
■出 資 金	3,410千円		
■主な業種	受託開発ソフトウェア業、情報処理サービス業、組込みソフトウェア業		

キャッチ
フレーズ

地域情報産業の発展を目指す海外ビジネスマッチング事業

事業・活動実現の
キーファクター

日本 IT ビジネスの現状に危機感を持ち、具体的なビジネスにすることを第一義に海外企業との交流を進めた結果、高頻度の商談会・ビジネスマッチング開催に繋がった。

1. 背景・目的

海外の IT 製品・技術を取り扱うにあたって相手先に魅力ある市場規模を提示するため四国 4 県で同じ志向を持つ同業者にて設立し海外企業とのビジネスマッチングを実施してきた。韓国、台湾、中国で今も継続したコネクションを持ち、新たにパキスタンとのコネクションの確立を進めている。

2. 取組みの手法と内容

経済産業省の海外展開支援事業、支援機関を活用して現地のキーマンとのコネクションを足がかりに、海外企業との継続的な付き合いを通じて具体的な商談・ビジネスマッチングに繋げて来た。四国 4 県で

の域内総生産や人口規模をパンフレットに掲載し、提示することで相手国の団体や企業が興味を持つことが増え、頻繁に開催される商談会への参加など具体的な成果を挙げている。

これらの成果は代表理事、専務理事を始めとする中核メンバーが積極的に現地に訪れ、現地企業と交流を深めた結果であり、その原動力としては日本に無い環境・アイデアでビジネスを創出する新興国に比べた日本のITビジネスの現状に感じる危機感も1つの要因となっている。

今後の展開として、組合として得られた成果を広く共有するため、地域外企業も賛助組合員・賛助団体として参画してもらうよう情報産業協会などの業界団体での活動を通じて働きかけを行っている。また、若手エンジニアが海外の技術や発想に触れることで、成長を促す取り組みも進めていきたいと考えている。



2019年 パキスタン NUST 大学学長との面会

3. 成果とその要因

2013年8月～2021年8月末までで、視察・交流17回、展示会・勉強会18回、商談会・ビジネスマッチング28回を実施した。技術勉強会を重ねて取り扱う技術を取得し、具体的な商談に繋げている製品も出てきている。

経済産業省の支援事業や支援機関を活用し、中心メンバーが積極的に現地キーマン・企業と接触を図るとともに、組合員もビジネスに繋げる意識を高く持ち参画していることが成功要因である。



2019年 IT EXPO in BUTAN 出展



2020年 パキスタン BOI 大臣表敬訪問

高知県土佐刃物連合協同組合（高知県）

■住所	高知県香美市土佐山田町上改田113番地1	■電話	0887-53-9530
■設立	昭和46年9月	■組合員数	46人
■出資金	975千円		
■主な業種	鍛造業又は鍛造に関連した製品、資材および機械器具の販売ならびに製造を行う事業者		

キャッチ
フレーズ

鍛冶屋創生塾を通じて、土佐打刃物の伝統を継承していく

事業・活動実現の
キーファクター

理事長と事務局が一体となって事業を推進することにより計画が実現され、組合全体に波及効果をもたらしている。

1. 背景・目的

急速な機械化が進み、農業や林業分野で打刃物の需要が減退するなか、後継者難が問題となっている

た県内の土佐打刃物事業者が業界の協力体制の確立などを目的に昭和46年に組合を設立。

その後、平成10年には土佐打刃物が国の伝統工芸品に指定され、平成19年には本組合が地域団体商標を登録、平成20年代には、後継者の確保を目的とした後継者育成の学校を構想し、令和元年に「鍛冶屋創生塾」を開始した。

2. 取組みの手法と内容

鍛冶屋創生塾の検討に際しては、委員会を立ち上げ、当時の理事長と事務局が一体となって取り組みを強力に推進した。組合が自ら研修コースや資金計画を作成、中央会の支援事業を活用して、専門家による助言を生かしながら総合的な計画を完成させた。

事業化に必要な資金は、国の伝統工芸品に指定されていることを生かし、各種補助金をうまく活用した。

また、研修時の講師については、通常であれば多額の費用が必要となるところだが、組合員が交代で務めることで対応。これによって費用削減だけでなく、人に教えるという経験がほとんどなかった組合員も研修生の熱心な取り組みを肌で感じ、積極的に講師を務めはじめるなど組合としての一体感が強化された。

20人以上いる後継者のいない組合員の半数程度が70歳以上という状況の中、令和元年から10年計画で卒業生を15人排出し、独立開業を目指すという目標の達成に向けた取り組みが進んでいる。

3. 成果とその要因

現在は3名の1期生のうち、2名の就職先（修行先）が決まっており、1名は鍛冶屋創生塾で助手として後進の指導に当たっている。このように人的サイクルもうまく回っており、業界の人材不足解消にも大きな役割を果たすことが期待される。



鍛冶屋創生塾



只今研修中

本会は、多種多様な業種の組合等が会員となっていていただいています。各組合がその特徴を活かし日々活動が続けており、今後の組合活動のご参考になるよう、会員の皆様方の仲間取材し、紹介していきます。

徳島県木材買方協同組合

～木材需要促進のための継続的な PR 活動を実施～



■ 組合の設立背景

同組合は、昭和 51 年 10 月に徳島県下の木材業又は製材業を営む中小企業者の方々により、組合員の商権を擁護し流通業界の安定化を目指して設立されました。以来、森林の適正な整備推進と環境負荷の少ない健康的な循環型資源としての木材を活用した木材産業を推進するために、積極的に木材や木造住宅の良さについて PR する様々な活動を行っています。また、昭和 63 年から設けられ現在でも続いている各種委員会においては、木材需要促進のための PR 活動に関する意見交換などが積極的に行われ、活発な事業活動が継続的に展開されています。

■ 組合の活動状況

『山と木と緑のフェア』（例年 10 月開催）や『徳島県内巡回移動木工教室』、徳島県木材市場連盟加盟各社の協力を得て実施される『特別市』（例年 11 月開催）による木材流通活性化の取り組みといったイベントの開催、勤務中の事故・余暇中の事故に備えての傷害保険や火災保険・自動車保険・共済保険といった保険事業の充実、

また、各方面から講師を招いての定期的な勉強会や講習会、組合員のスキルアップのための研修会、県外有名木造施設の視察、環境保全技術の研究旅行など、活発な事業運営を意欲的に行ってこられた当組合ですが、昨今のコロナ禍の影響もあって、活動が制限されている状況が続いています。

そうしたなかでも、できることをやろう、という考えから、「木育」や自然環境保全に関連した活動、組合員の負担軽減につながる取り組みは現在でも積極的に展開されています。



移動木工教室の様子

■ とくしまの木育

「木育」とは、子どもをはじめとするすべての県民が『木とふれあい、木に学び、木でつながる』取り組みで、木を身近に使っていくことを通じて、人と森林との関わりを主体的に考えられる人づくりを推進するものです。

身近な人と一緒に木で遊び、木に学び、木でつながる活動を通して感性を高め、木との関わりから自分自身を大切にすることを知り、人や自然に対する「気づき・尊敬する気持ち」を醸成、また、木と森林、河川、都市とのつながり、人間活動における教育、環境、産業、消費などのつながりを理解して、木の良さや利用の意義を普及する人づくりを目指しています。

徳島県においては、豊富な森林資源を生かして、古くから林業を起点に木材関連産業や木工・家具製造、住宅分野まで裾野が広がっています。戦後植林された「徳島すぎ」など様々な木材が徳島県にとって大きな資源となっている今、木材以外の工業製品との関わりの中で生きてきた人々の暮らしや環境、学びを見直して、県産材の利用促進による「木の文化」の再構築も図っています。

「木育」活動を通して、森林や自然に対する気づきと尊敬の気持ちを持ち、木材の「つながり」を通じて地球環境保全を考え、人と森林が共存する新しい社会の構築、生活に新たな木材の活用を呼びかけるとともに、県産材を活用した建築物はもとより、町づくりやコミュニティづくりへの活用を目指しています。特に近年では「とくしま木のおもちゃ美術館」の誘致に当たって、基本構想の検討段階から積極的に参画しています。

■ 児童木工工作「木とふれあうコンクール」

「とくしまの木育」に掲げる目標には、心の健やかな発達、「木の良さを感じる感性」をバランスよく育むこと、といったものもあります。

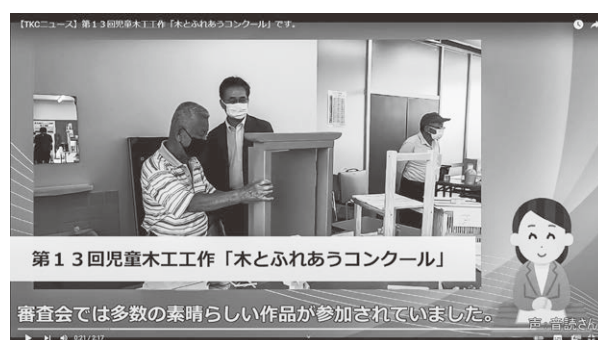
徳島県の森林と木材、それらを取り巻く社会環境には、教材として活用できる魅力的な素材があふれています。木や森との日常的な関わりの中から、木や森を身近に感じる環境をつくり、モノを創造する知恵や力を培っていくため、ま

た、木の教材・学びの木育を実現するため、これらの素材を学校や地域の様々な学びの中にも取り入れられており、当組合でもその一環の一つとして児童木工工作「木とふれあうコンクール」を毎年開催しています。

これは県内の小学生を対象に夏休みを通して募集されるもので、令和3年度においても第13回目のコンクールが開催されました。県内38小学校の参加で118点の応募があり、令和3年9月の審査会では徳島県知事賞をはじめとする22点が優秀作品として選ばれています。（コンクールとしては通算で43回開催されています！）



木とふれあうコンクール優秀作品



（中央会 YouTube でも審査会の様子をご紹介します）

■ 組合員の負担軽減につながる取り組み

当組合では、日常行われている木材市場各社と組合員間の商取引で発生した問題に対する解決策を徳島県木材市場連盟と討議、また、より良い木材流通業界活性化のための将来構想を市場連盟加盟各社、諸関係団体と審議を重ねています。

また、各種厚生事業の充実のほか、近年では

労働補助具となるパワーアシストスーツを導入し、組合員を対象にした体験研修会を実施するなど、様々な側面からの充実を図っています。



パワーアシストスーツ体験研修会の様子

このパワーアシストスーツは、働き方改革推進支援助成金（厚生労働省労働基準局労働条件政策課補助事業）で導入したもので、狭所での重量物の運搬作業や上げ下ろしといった、重篤な労働災害につながる恒常的作業の負担を大きく軽減してくれます。

また、こういった労働補助具によって、女性や過去に受傷している者でも作業にあたるできるようになり、身体的安全確保だけでなく、色々な面での効率化や生産性の向上につながる事が期待されています。

（組合 YouTube でも体験会の様子がご覧になれます。）



（中央会 YouTube：中央会職員も体験しました。）

■ 「いい端材どっとこむ」 へようこそ！

徳島県は全国有数の木材の産地で、歴史のある多くの木材加工業者が集積しています。この「いい端材どっとこむ」は、徳島県木材買方協同組合が運営主体となり、組合員から出品された、希少木材や、手作りの木製品、家具などをネット販売している Web サイトです。

移動木工教室で活用している木工工作図面集（木・竹とんぼや本立てなど 15 種類の図面があります）やパワーアシストスーツ体験研修会の模様を掲載した組合 YouTube ページへのリンクもありますので、是非ご覧ください。

組合プロフィール

徳島県木材買方協同組合

住 所：〒770-8001
徳島市津田海岸町 8 番27号

電 話：088-662-3714

F A X：088-662-3849

理事長名：深見 正治

業 種：木材卸売業、一般製材業

組合員数：116人

設立年月：昭和51年10月9日



理事長
深見 正治 氏



Web サイト
いい端材どっとこむ



組合 YouTube ページ



株式会社 山文

中央会では、平成 24 年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

第 29 回目は、平成 27 年度からものづくり事業に取り組まれてきた『株式会社 山文』をご紹介します。同社は、各種の貼り箱を製作するために、設備機器を導入して高品質な製品の製作の自動化、作業工程の効率化を行い、生産能力の飛躍的な向上、社内 IoT 化といった様々なことを達成しています。

今回は、山根正伍会長と取締役の山根芙美氏のお二人から詳しいお話を伺い、工場も案内していただきました。



1 安政 2 年（1855 年）に山根丈兵衛さん、國蔵さん親子が川田村（現山川町）で手漉き和紙業を始めたのが創業とされています。先人達からお聞きになった苦労話や面白い話などで披露ください。

昔からこの辺りから西に向かって各谷筋で副業として紙漉きをする人が多く住んでいました。今の四国中央市には、和紙の漉き子の技術を持った古いお婆さんが、戦力として半田、貞光、池田の奥域から移住したり嫁いだりで、相当数います。昔の川田村もそういった貧しい地域で、私どもの先祖は安政 2 年頃から完全な稼業として紙漉きを始めていたようです。

阿波忌部氏があって栄えていた地域の印象もありますが、台風で大水が出たらごっそり持っていけるような、川の谷筋の環境は非常に不安定なものでした。山に依存して暮らす人たちが多く、紙漉きはその流れだと思えます。

稼業として続いていた紙漉きを本格的に取り組み始めたのが山根丈兵衛と國蔵親子でした。そこよりさらに昔のことについては、戦争の惨禍の影響で残念ながら辿れなくなっています。ただ少なくとも江戸の初期頃には起こりがあったことまでは追えています、安政 2 年からは

私（山根会長）で 5 代目となります。



会 長 山根 正伍氏（左）
取締役 山根 芙美氏（右）

山根丈兵衛の代のころの川田の紙は障子紙がメインでした。その頃から産業用紙の製造に移行しようと、川田製紙という会社を地域の者が共同で設立し、そこに丈兵衛の息子兄弟が参画していました。その兄弟のうちの四男である文夫が、「物資不足の世の中、紙そのものよりも紙の加工品が求められている」と判断し、昭和 24 年に包装資材の加工業として「山文紙工所」を設立したのが当社の今の形の基になっています。

紙漉きの流れを残しつつ様々な紙製品を製作していく中で、紙箱を製造し始めたのは昭和 30 年頃の高度経済成長期に入ってからでした。

徳島は農業地域でありますので、その出荷容器や資材といったもので紙を使ったものがけっこうありました。その販路開拓が起点となって、農業用の紙資材類を手掛けるようになり、農産物の輸送が木箱から段ボールに切り替わった時に段ボールの販売も始めました。

また、ちょうどその時期に、紙袋を卸していた菓子店から贈答用などの菓子箱も作れないかという要望をいただきました。そのため貼り箱の技術を習得しました。その後、菓子箱だけでなく着物の反物を入れる大型の貼り箱や、四国八十八箇所の札所で納経用の掛軸を入れる長い箱など、主には地域の需要に応える形で事業を続けてきています。

製袋をメインにしていた時期もありましたが、量販店の買い物袋が紙から化成品に切り替わった時点で、当社としては完全に撤退しました。今の時代はその化成品も脱プラの流れで使われなくなりつつあります。紙製品に回帰するなどとも言われていますが、昔のような形式に戻るといえるのではなく、違った形で大きく変化すると考えています。一度化成品に置き換わったものを、また紙製品に変えるとなると、どうしてもコストは高くなってしまいます。当社としては、高くなっても紙に変えていくというモノについては参画していきますが、価格競争が目に見えているようなモノにはついていけないと考えています。

昭和 55 年、山根文夫の逝去に伴い事業を承継し、昭和 59 年には法人化を進めて株式会社山文となりました。その後も県内の農協を主な顧客とする農業資材や段ボールの販売を順調に進め、一般企業や商店との取引も活発に行い、事業規模を上げていきました。それに伴って平成 8 年には現在の本社所在地である山川町堤外に包装



代表取締役社長 山根 大典氏

資材の加工物流センターを新築移転しました。

東京に進出したのは平成 21 年で、その少し前からこの 10 数年、様々な展示会やギフトショー、アグリフード展、JETRO（日本貿易振興機構）の支援を得てアメリカの展示会などにも出展し、当社を知ってもらおう努力を続けています。支援をいただける制度は、それこそフル活用して展開してきました。



紙製の遊山箱

2

リーマン・ショック直後となる平成21年に東京営業所を開設されています。経緯や背景、狙いなどについてお聞かせください。

当時の徳島県の状況として、人口減の深刻化と、農業生産についても平成 8 年の本社移転の時期をピークに落ちているようなときで、その他の一般産業も見事なほどに低調となっていました。今でもそうですが、段ボールの売り上げが昨対でマイナスとなっているのは、全国でも北海道と四国だけです。北海道は約 4 %ほどですが、四国は 10 数%減です。これはつまり、四国で注目される商品が少ないということに繋がります。

四国中央市や坂出に大きな物流センターがありますが、そういったところが大きく機能するようなモノがない上に、主に取り扱っているのは 100 円ショップなどで売られているような安価な商品ばかりで、それらは包装にお金はほとんどかけていません。

そうしたこともあって、リーマン・ショックの影響というわけではありませんが、外へ出ようとなりました。

東京は、しがらみを意識することなく勝負できますので、田舎のような商売の難しさといっ

たものはあまりありません。

関西方面でも大手洋菓子店や大手神仏用品店との取引がありました。低価格・高品質を求められ、価格競争となったため止めました。安値受注を続けていた箱屋が結局倒産していくのもみえています。東京でもこういった価格競争はありますが、品質から価格を見てもらえる傾向が強い側面があります。

価格重視の関西ではなく、高品質を提供すれば高価格でも購入してもらえ、関東のほうが営業努力でチャンスがあるという積極的な考えで、東京営業所を立ち上げました。



技術の詰まった紙箱

3 商品にマッチした紙箱が製作できるというのが強みになると思いますが、商標権のようなものはありますか。また、「デザイナーとのコラボによるオリジナル商品開発」と謳われていますが、量産面など取り組まないといけなことは何でしょうか。

意匠登録はありますが、出しても出すだけという感じです。同じようなもの、似たものは次々出てきて、訴えかけても決着することはほとんどありません。

取引先の戦略と我々の作るパッケージが上手くマッチングしないと、高品質な良いものの企画には繋がりません。

一時期、販路紹介といったマッチングの取り組みに参加したことがありますが、あまり積極的な支援を受けられるものではなかったこともあって、独自に商圈を探って自らターゲットに働きかけていくようになりました。企画はどんどん出していかないと、数字は伸びないと考え

ています。

ただ、大手量産会社とのタイアップなどは、お話をいただいても対応しきれません。「見た目も含めて他製品と差別化する高品質な商品のためのパッケージ」として捉えてもらえるユーザーでなければ当方の箱は通用しないものと思っています。

首都圏の展示会への出展がきっかけで、デザインにこだわった高級手帳を作る会社ともう10年ほど取引させていただいていますが、やはりこだわっているからこそ当社の箱を使ってくれていると考えています。

有名どころとの取引は展示会でお声がけいただいて、というのがほとんどですが、コロナ禍となってからは来場者にも目的意識を持った人が多くなったように思います。

4

ものづくり補助金事業では、

- ① 手作業中心であった『変形貼り箱』および『デザイナー貼り箱』製造の全自動化計画
- ② Vカット機導入による、Vカット貼箱の国内製造の実現
- ③ 手作業中心であった貼紙の裁断・打抜き製造の全自動化計画に取り組まれています。内容・成果などについてお聞かせください。

①では、全自動貼箱機を導入することによりこれまで手作業で製造していた変形箱の量産体制を構築しました。テーパーのある貼り箱を作る事業者は国内でも少なく、他社との明確な差別化も図られていて、出来上がった箱も好評をいただいています。老舗の大手弁当・飲食店との取引のきっかけにもなりました。



テーパー（角度）をつけた貼箱



全自動貼箱機（イタリア製）



Vカットマシン（イタリア製）

②では、イタリア製のVカットマシンを導入しました。厚みのある紙をVの字にカットして貼り合わせることで90度の角度を作り出し、それによって生まれる高級感が、他商品との差別化となっています。

ケースの仕様が 바뀌って単発となりましたが、2019年2月には大手製菓会社からも注文をいただくきっかけとなりました。こうした明らかに差別化が図られた商品が出来上がると、作り手としても楽しいものです。

ドイツ製やアメリカ製など、武骨な見た目でもいかにもしっかりしたものが出来上がりそうな機械がありますが、反面頼りない感じのイタリア製の機械の方が仕上がりは良く、国内でも良い箱屋さんではイタリア製の機械が多く採用されています。これはやはり国内にハイブランドが多いからだと思っています。



Vカットマシンで使用する刃の一つ

化を行い、貼箱製造能力の飛躍的向上を図りました。

その結果、自動化の遅れからボトルネックとなっていた紙裁ち・紙抜が全自動化でき、生産性の向上だけでなく、社内のIoT化も実現し、ものづくりのソリューションに繋げていくことが可能になりました。2021年10月から試運転が始まり、現時点で生産効率が上がる目途も立っています。

現在、新型コロナウイルスの影響は大きですが、新たな生活様式に移行しようとパッケージの新規企画・開発が始まっています。その動きに柔軟に対応しているおかげで、前述の大手弁当・飲食店との取引も増え、また、大手コーヒー店や美容サロン用ヘア化粧品専門の会社からも見積もりやサンプルの依頼が来ています。



高品質な貼箱

③では、日本製の自動平板打抜機を導入することで、貼箱製作工程のうちベースとなる板紙とそれに貼り付ける化粧紙の打抜き工程の自動



自動平板打抜機（日本製）

5

製造工程の検討や工夫といった、課題解決を目的とした社員教育など、取り組まれていることがあればご披露ください。

徳島県内に当社と競合するような事業者はほなく、また、当社がどういった事業を行っている会社か、紙加工がどういったものかというのもまだまだ広くは知られていません。そういったところもあって、人を採用するという部分では少し苦勞しています。

毎年新卒者を採用していますが、最近では手先の器用な人が少ない印象で、まだまだ手加工の部分は多いため、なかなか即戦力となる人はいません。

自動化が進んでも、工程の一部でどうしても手作業は入ってきます。ロットが大きくても自動化部分だけ先に作ってしまうと、その分劣化も先に進んでしまうので、ペースはどうしても手作業に合わせないといけなくなります。そうすると結果的にはそれほど生産数は上がらず、価格も高くなってしまいます。

ただ、そうした一工夫が付加価値を生み出していると考えています。老舗の和菓子店に卸している紙製の遊山箱などは限られた職人しか作れず、引き合いはたくさんありますが、いくら注文いただいても対応しきれません。やはり自動化が進んでも、人材の育成はじっくりと取り組んでいかなければならない課題です。

ローカル企業からナショナル企業へ。箱の世界のオンリーワンを目指して、日々企業努力を続けています。180年の歴史に連綿と流れるのは、この地に根ざした「紙」への感謝です。私たちは紙を漉き、加工し、販売することで、地

域社会とともに生きてきました。阿波紙の歴史を後世に伝えるとともに、紙の新しい文化を切り開いていくこと。これが今後の私たちに課された使命であると考えています。

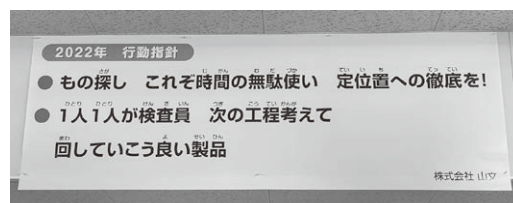
今後も、新しい時代に適合した事業のあり方を探求しつつ、原点であるものづくりにおいては、培った技術に磨きをかけ、「手作りの温もり」と「技」にこだわり、妥協のないクオリティーの高い商品づくりに取り組んでいきたいと思っています。

【取材を通して】

取材の後には、撮影も兼ねて工場の見学もさせていただいています。工場内を見上げてみますと、梁の部分に年ごとの『行動指針』が大きく張り出されていました。

毎年みんなそれぞれが案を出し会長が決定するそうで、2022年の行動指針は取材対応していただいた山根美美さんの案が採用されたとのことでした。5Sや安全標識だけではなく、その年の基本となる方針をいつでも確認できるようにしておくというのは良いことだと思いました。

この度はお忙しいなかご対応いただき、ありがとうございました。



企業の概要

- 会社名 株式会社 山文
- 所在地 徳島県吉野川市山川町堤外35-6
- 電話 0883-42-2234
- FAX 0883-42-5111
- HP <http://yamabun-85.com/>
- 代表者 代表取締役社長 山根 大典
- 設立年月日 昭和59年10月
- 従業員数 20名
- 業種 パルプ・紙・紙加工品製造業





組合ホットニュース

とくしまイチ推し旅行コース投票キャンペーン 1位の表彰楯(MVP)授与式開催 ～協同組合徳島県旅行業協会～

協同組合徳島県旅行業協会と徳島県中小企業団体中央会が連携し、「徳島県イチ推し旅行コース投票キャンペーン」を実施しました。徳島県のイチ推し旅行 22 ルートを、写真と動画を使って紹介し、



見て頂いた方に「行きたい！」と思うルートに「いいね！」を押して頂きました。「いいね！」の総数は7,170票。そのうち1,639票と一番多かった「世界初 DMV 乗車と四国の右下」旅行コースを企画した一般社団法人四国の右下観光局に対して、1位の表彰楯(MVP)を中央会の木具恵専務理事より授与しました。

皆様から頂いた「いいね！」やコメントを参考に、魅力的な徳島県イチ推し旅行コースを商品化し、とくしま旅 navi で紹介して参りますので、お気に入りにご登録をお願いします！

四国の右下観光局	勝瀬 智史 氏 (中右)
(協)徳島県旅行業協会	大谷 稔 理事長 (左)
(協)徳島県旅行業協会	田和 里恵 専務理事 (右)
徳島県中央会	木具 恵 専務理事 (中左)

とくしま旅 navi
<https://tabinavi-tk.com/>



「第16回両国えびす祭り」を開催 ～徳島市両国本町商店街振興組合～

徳島市通町の事代主神社えべっさんの宵えびすの日である 2022 年 1 月 9 日(日)、「第 16 回両国えびす祭り」が徳島市両国本町商店街振興組合の主催で行われました。当商店街は、阿波踊りの演舞場が最初にできた通りで、通称「踊り子泣かせの両国本町」と呼ばれています。通りにある愛媛銀行徳島支店駐車場において商売繁盛・五穀豊穰、今年も良い年になりますようにと願いを込めた戎舞&七福神パレードや野菜神輿展示&お福分け、書道パフォーマンスが催され、えべっさん期間中(11日(火)まで)は商店街店舗にてセールも行われました。



※ 予定されていた『書き初め体験』については、新型コロナウイルスの感染急拡大の状況を鑑み、安全を最優先に中止となりました。

組合 HP



令和3年12月

情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員49名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

【全体の景況】

建設業関連では需要が好調であり、また飲食関連をはじめとする多くの業種でコロナ感染状況の落ち着きと年末需要により受注数や人出が増加した様子。

一方、高齢化や外国人労働者不足など慢性化する労働力問題をはじめ、原材料費や燃料価格の高騰にもかかわらず、商品への価格転嫁が困難で収益を圧迫している。また長引く新型コロナウイルスの影響により、部品・資材不足が発生しており、現場の遅れや供給が追いつかない状況など、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で新たな変異株が猛威を振るっている新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

【製造業】

<食料品>

【味噌】みその出荷量においては4ヶ月連続100%超えとなり販売が順調に回復。特に昨年末は忘年会等の会合も増え、業務用飲食関連の需要が増加したもののと思われる。

【漬物】漬物製造業者では年末年始に向けての生産が好調であった。漬物業・農家ともに技能実習生の入国を待ち望んでいる。

<繊維・同製品>

【縫製】労働力不足は相変わらず続き、外国人雇用や女性活用を呼びかけても、足踏み状態が続いている。原材料費は、じわじわと値上がり傾向が続いており、原価にかかる負担額が増える模様。

【縫製】受注量が減っているにも関わらず、外国人労働者に頼っていた生産工場は外国人入国禁止で人材不足となり、生産が間に合わず人材確保が急務となっている。

<木材・木製品>

【木材】11月同様外材輸入、特に原木の量が徐々に増えてはきているにも関わらず価格が全くだがらない。このまま価格が高止まりして、インフレ状態に陥っていくと、木材離れがはじまり連鎖倒産する可能性がある。

【製材】製品の引き合いもあり、原木丸太の仕入れも改善傾向にあるが、これからのシーズンは雪が心配である。

【木材】冬の影響が左右する。

<印刷>

【印刷】年末需要もあり輪転等のチラシは好調だった一方、枚葉印刷は去年より悪くなった。イベントや催し等、主催者側の再開意欲が落ちてきている感じがする。

【印刷】12月は1年の中でも受注量の多い月ではあったが、コロナの影響また紙離れの影響もあり期待していた数字をあげられた組合員はほとんどいなかった。

<窯業・土石製品>

【生コン】昨年同月と比較して約5%減少。要因としては特需工事が終了したことが出荷量減少の主な要因であるが、それに代わる大きな工事の発注もなく、今現在進行中の堤防工事において若干出荷が見込める程度である。

【生コン】出荷数量は、対前年同月比15%減少。また原材料であるセメント価格の引き上げに続き、骨材などの値上げもメーカーから要請されており、今後の展開によっては収益状況は更に悪化となることが予想される。

<鉄鋼・金属>

【鉄鋼】景況感に大きな変化は見られないが、原材料の価格高騰及び不足による材料調達遅延が続くなか、生産速度が上がらず採算性も横ばいと低調に推移している。

【ステンレス】世界的な半導体問題や材料価格の高騰、電気部品・装置部品の長納期化も一部で改善傾向も見受けられたが、新たな変異株の急速な感染拡大を受けて、今後の生産活動に懸念が発生している。

<一般機器>

【機械金属】業況の一部に持ち直しの動きが見られる一方、

営業活動の停滞、半導体不足や部品資材の長納期化等により、売上高や引合いなどに厳しい状況も見られ、先行きの見通しが不透明な経営環境に変わりが無い。

【非製造業】

<卸売業>

【食糧卸】昨年の秋頃から動きが悪く、消費者の目が他の値上がり商品に向いている様だ。

<小売業>

【ショッピングセンター】12月の前年対比は全館で売上89.2%、客数90.2%と大変悪い数値となっている。業種別には身の回り品103.2%、核店舗を含む食料品が97.2%、衣料品83.9%、住居関連65.4%。一昨年の12月にオープンした新店は住居関連に該当するため、コロナ禍による売上減少ではないと思う。

【量小売業】年度末に向かっての公営住宅のリフォームの見積りが数件あるが、年内の仕事量は少なかった。

【電気機器】安定した買換え需要はあるものの、工事材料等の値上げや商品の入荷遅延も経営にはマイナス影響。

【機械器具】販売価格が急上昇し始めた。コンテナ不足による輸入遅延が心配。春の需要期に間に合わないかもしれない。

<商店街>

【徳島市】飲食店では昨年よりも客足が戻っている様子。

【徳島市】飲食など街に人は、出はじめているが駅前・アーケードには活気は戻っていない。

【鳴門市】初売りセール後は、暇になるが売上は前年と変わっていない。

<サービス業>

【土木建築業】全体的に先月と大差はないが、役所側職員は3割減のリモート勤務を実施。現場技術員は在宅orリモート勤務を自主選択。公共金額については国土強靱化対策により増加し河川事業も増加している。職員が不足している。

【自動車整備】登録車の前年度割れが大きく、トータルでは対前年度比9.2%減。同月で見ると、令和元年の消費税増税の年の販売台数と同程度。なお、新車に関しては2021年の国内販売台数は供給遅延の為、東日本大震災が発生した2011年以降の450万台割れで、3年連続マイナスとなっている。

【旅行業】とくしま応援割等の個人旅行が増加した。また団体ではコロナ感染者がなく、修学旅行も動き出した、旅行へ出てみようという動きがお得な割引等で出たと思われる。

【ビル管理】ホテル分野のメンテナンス業においては、コロナ陽性者が急激に減少し、客室稼働率上昇による清掃従業員の不足とコロナ陽性者療養施設及び医療従事者待機ホテルの稼働率の減少による従業員の過多という二面の現象が生じ、両施設間での出動調整により、当面乗り切っている。

<建設業>

【建設業】県下の公共事業の12月単月の請負額において、全体で対前年比約31.8%の減。また12月末の累計では8.0%減となっている。国や市町村は減少し、県は累計で4.0%増加。年度末に向けて、発注量は増加すると思われる。

【板金工事業】フッ素樹脂塗料の供給制限による金属サイディングの出荷量激減で、外壁工事に支障が出てきている。

【電気工事業】新設住宅口数は197件であり、対前年比179.0%と大幅に増加した。

【鉄骨・鉄筋工事業】操業度が多少増加したものの年末年始の休みのため、前月とほぼ変わらない。

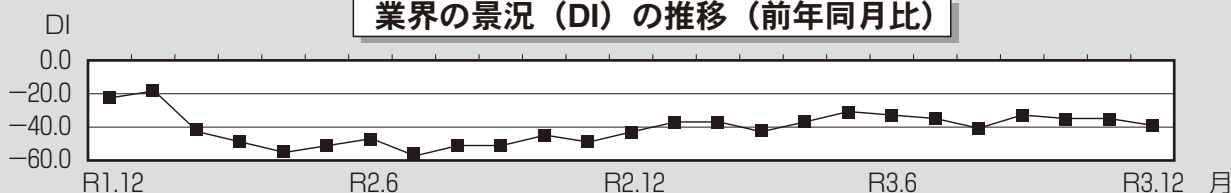
【解体工事業】公共・民間の大型解体工事により活況。地区別については斑模様で重機等の稼働率が低調な地区もある。

<運輸業>

【貨物運送業】業界も年末で活性化の傾向が見えた。軽油単価も前月比約6円の値下りとなり、収益が向上した。反面、来月は値上りが予想され厳しい年になるとの情報もある。

【貨物運送業】少し下がってきたとはいえ高止まりしている燃料高に頭を悩まされた。荷動きがあるが、年末繁忙期とは思えないとの声が多く聞かれた。

業界の景況 (DI) の推移 (前年同月比)



※ DI 値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー

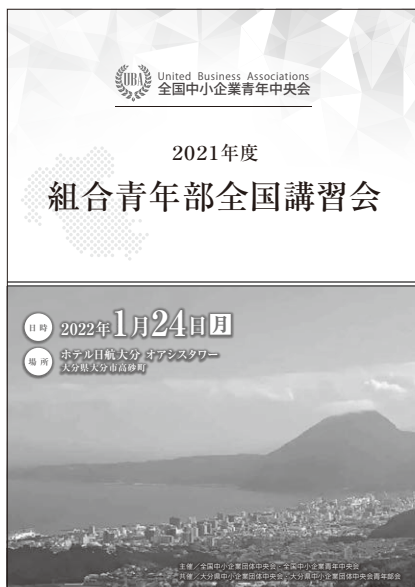


青年部活動トピックス



◇2021年度 組合青年部全国講習会◇

(令和4年1月24日 大分県)



令和4年1月24日(月) 大分県に於いて「2021年度 組合青年部全国講習会」が開催されました。リアルとオンラインのハイブリッド方式で開催され、徳島県中小企業青年中央会からは、渡辺裕士顧問がリアル参加、後藤田祐一会長、清水丈雄副会長、事務局員の3名がオンライン参加となりました。講習会では、「人材育成～人材を定着させるために企業がすべきこと～」というテーマでアビリティ株式会社・柴山甲子朗氏からZ世代の特徴を踏まえた人材育成のポイント等について学びました。

その後開催された「UBA サミット」では、各ブロックの代表者がパネリストとして登壇し、「人材流出を防ぐには」というテーマでパネルディスカッションが行われました。「定着率を上げるために仕事の楽しさなどを発見してもらえようような働き方を考える。」「世代によって価値観が異なるので、価値観が異なることを認め合う。」などの発言があり、今後の「人材育成・人材定着」に大変参考になるパネルディスカッションとなりました。

◇第9回四国電気工事組合連合会 青年部会員大会◇

(令和4年2月5日 徳島県)

令和4年2月5日(土) 第9回四国電気工事組合青年部会員大会が徳島県で開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、パネリストなど一部参加者のみリアル出席、その他の参加者はオンラインによる出席となりました。

徳島県中小企業青年中央会からは、後藤田祐一会長、渡辺裕士顧問、黒田大輔副会長、本久智一理事の4名がパネリストとして参加、グループディスカッションには20名が出席しました。様々な業種の方々と有意義な意見交換を行うことができました。





女性部コーナー



女性部活動トピックス



◇とくしまレディース中央会◇

鳥取女性中央会・とくしまレディース中央会 オンライン交流会を開催

令和4年1月25日(火)、徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにて鳥取女性中央会とのオンライン交流会を開催いたしました。ファシリテーターとして、とくしまワークショップらば・吉野哲一氏の進行で「コロナに打ち克て！女性ならではの目線でウィズコロナを考える」をテーマに交流会を行いました。鳥取女性中央会の皆様とオンライン会議システムを活用してそれぞれの実施しているコロナ対策や、新商品開発などの状況について活発な意見交換ができました。

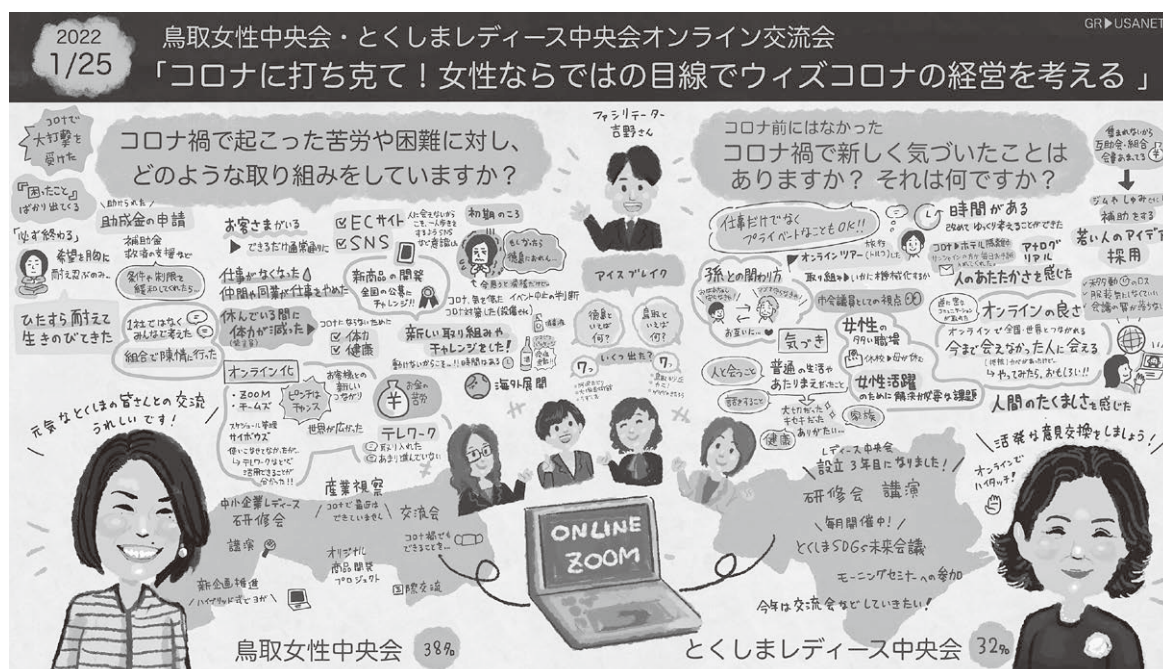
とくしまレディース中央会からは中本ユミ子会長をはじめ13名、鳥取女性中央会からは8名の参加となりました。当日はグラフィックレコーダーのUSANET 合同会社代表さのはるか氏による議事録のグラフィックレコーディングもしていただき、会議内容の共有も図ることができました。



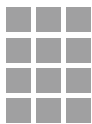
とくしま会場の様子



鳥取女性中央会との交流の様子



グラフィックレコーダー さのはるか氏による交流会のグラフィックレコーディング



中央会トピックス

「中小企業合同ワクチン接種」に対する 感謝状が贈呈されました！

令和4年1月6日(木)、中央会役員室において、西日本高速道路株式会社(NEXCO 西日本) 四国支社より当中央会に対して感謝状が贈呈されました。

これは、徳島商工会議所、徳島県商工会連合会及び当中央会の3団体が合同で令和3年9月及び10月に実施した「中小企業合同ワクチン接種」(新型コロナウイルス感染症対策ワクチン職域接種)が、NEXCO 西日本グループ等の事業継続に大きく貢献したとして感謝の意を表していただいたものです。



職域接種実施期間

令和3年9月6日(月)～24日(金)

令和3年10月4日(月)～22日(金)

徳島県中央会 木具 恵 専務理事(左)
NEXCO とくしま工事事務所 浦 啓之 所長(右)

ものづくり企業のための海外WEB商談会準備講座開催

当中央会が実施する、効果的な中小企業販路開拓支援事業における「ものづくり企業のための海外WEB商談会準備講座」が計2回開催されました。

第1回目は、「海外(輸出)で売れる仕組みを考えるワークショップ」のテーマで令和4年1月21日(金)に、第2回目は「ものづくり系海外バイヤーとの商談について」のテーマで令和4年1月28日(金)に実施しました。

商談に臨む心構えや事前準備、バイヤーが何を望んでいるのか、アピール力の強化などを目的としたもので、当初は模擬商談会などの実施も計画されていましたが、依然として続くコロナ禍の影響を鑑み、オンライン講習会の実施のみとなりました。

講師には株式会社フォース・ウェイブ・コンサルティング代表取締役の田中義徳氏と、合同会社トロ代表社員の芳賀 淳氏にそれぞれご依頼し、また、JETRO 徳島のご協力を得て開催いたしました。



組合活性化情報令和元年度第1号から中央会事務局職員が会員の皆様に、より親しんでもらえるよう、プライベートなこと（趣味、特技、熱中している物事、最近気になっている物事など）について、綴っていきます。第12回目は、鮎合係長です。



鮎合 吉彦 [組織支援課・係長]

①自己紹介

苗字の「鮎合」は「あいごう」と読みます。母親の希望が通っていれば、漢字は分かりませんが「ジュンノスケ」という名になっていたそうで、何となく複雑な想いです。徳島生まれ徳島育ち、乙女座、血液型はB型です。2つ上の姉がいます。座右の銘は「なるようになる」です。

幼い頃は気管支が弱く、おばあちゃん子で、甘やかされるにまかせて甘えて育ち、今ではすっかり気難いおっさんになってしまいました。自覚はしていますが、もう改善は見込めません。ご迷惑おかけします。

②生い立ち・趣味など

津田という海の近くで育った所為か、子供の頃から自然な成り行きで釣りをするようになりました。父親に初めて釣りに連れて行ってもらったとき、スピニングリールのベールに道糸を通さないまま仕掛けを結んで遠投してしまい、手巻きで回収したことを覚えています。また、車に慣れてしまった今ではとても考えられませんが、小学校中学年の頃には、阿南市や上板町ぐらいなら友達と連れ立って自転車で釣りに行っていたのを今でも思い出します。その頃は、「自分が大人になったら船舶免許をとって、眺めるしかできないあんなところやこんなところに船で行って釣りをする」という野望がありました。純粹でした。

「魚釣り」くらいしかなかった趣味も、中学生になって父親の影響でバスケを始め、高校生で麻雀を覚え、大学生になってからはバンド活動やビリヤードにはまり、社会人になってゴルフに手を染め、果てはダーツにはまりました。「熱しにくい冷めにくい」のと、「あれもこれもは苦手」、な性質が相まって、何か熱中するとそればかり続けることが多いのですが、今はゴルフ以外「一時中断」してしまっています。「コロナウイルスのせいで！」というわけではなく、中断理由には様々ありまして、それでも釣りだけは生涯の趣味として、再開しやすい態勢をある程度整えています。

釣り以外にも、藍染めや陶芸、写生や写真、料理、トレッキング、電車旅行やアクアリウムなど、様々興味深いことがあり、どれを本格的に始めてやろうかと「自分にとって新しい何か」を模索しているところです。

③これから

はやいもので中央会に入職して丸19年が経ちました。定年までの折り返し地点に来たような、自分にとっては節目の年だと思っています。

良き先輩方、良き後輩方に恵まれ、また、仕事を通じて関わらせていただいた方々から様々なことを学ばせていただいています。

これからの時代、何が起るかどうなるかわかりませんが、今までどおり座右の銘に倣って行けるところまで行こうと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



入職当時、良き先輩方とのハワイ旅行での一枚



お知らせコーナー



～電子取引データの保存方法をご確認ください～

【令和 4 年 1 月以降用】

電子取引データの保存方法をご確認ください

- ◆ 令和 5 年 12 月 31 日までに行う電子取引については、保存すべき電子データをプリントアウトして保存し、税務調査等の際に提示・提出できるようにしていれば差し支えありません（事前申請等は不要）。
- ◆ 令和 6 年 1 月からは保存要件に従った電子データの保存が必要ですので、そのために必要な準備をお願いします。

- 請求書・領収書・契約書・見積書などに関する電子データを送付・受領した場合には、その電子データを一定の要件を満たした形で保存することが必要です。
- 申告所得税・法人税に関して帳簿書類の保存義務がある全ての方にご対応いただく必要があります。

✓ 保存すべき電子データは？

◆ 紙でやりとりしていた場合に保存が必要な情報が含まれる電子データ

（例）請求書、領収書、契約書、見積書など

※受け取った場合だけでなく、送った場合についても保存が必要です。

※例えば、電子メールの本文・添付ファイルで請求書に相当する情報をやりとりした場合や、WEB 上でおこなった備品等の購入に関する領収書に相当する情報がサイト上でのみ表示される場合には、それぞれの電子データを保存する必要があります（PDF やスクリーンショットによる保存も可）。

✓ どのように保存する必要があるのか？

◆ 改ざん防止のための措置をとる

「タイムスタンプ付与」や「履歴が残るシステムでの授受・保存」といった方法以外にも「改ざん防止のための事務処理規程を定めて守る」でも構いません。

◆ 「日付・金額・取引先」で検索できるようにする

専用システムを導入していなくても、①索引簿を作成する方法や、②規則的なファイル名を設定する方法でも対応が可能です（詳しくは裏面をチェック）。

※ 2 年（期）前の売上が 1,000 万円以下であって、税務調査の際にデータのダウンロードの求め（税務職員への提示等）に対応できる場合には、検索機能の確保は不要です。

◆ ディスプレイ・プリンタ等を備え付ける



✓ 改ざん防止のための措置について

- ◆ システム費用等をかけずに導入できる“改ざん防止のための事務処理規程”については、[国税庁HP](#)でサンプルを公表しています。

※Word ファイルで公表していますので、ひな形としてご活用いただけます。



✓ 検索機能を確保する簡易な方法について

以下のいずれかの方法でも、検索機能を確保していることとなります。

- ◆ 表計算ソフト等で索引簿を作成する方法

表計算ソフト等で索引簿を作成しておくことで、表計算ソフト等の機能を使って検索する方法です。

〔イメージ〕

連番	日付	金額	取引先	備考
1	20210131	110000	株式会社	請求書
2	20210210	330000	国税工務店	注文書
3	20210228	330000	国税工務店	領収書
...	...	...	...	...
49	20211217	220000	株式会社	請求書
50	20211227	55000	国税工務店	領収書

- ◆ 規則的なファイル名を付す方法

データのファイル名に規則性をもって「日付・金額・取引先」を入力し、特定のフォルダに集約しておくことで、フォルダの検索機能が活用できるようにする方法です。

〔イメージ〕

20210131_110000_(株)霞商店.pdf
20210210_330000_国税工務店 (株).msg
20210228_330000_国税工務店 (株).pdf
20211217_220000_(株)霞商店.msg

(例) 2021 年 1 月 31 日 (株)霞商店からの 110,000 円の請求書なら「20210131_110000_(株)霞商店」

※ 税務調査の際に、税務職員からデータのダウンロードの求めがあった場合には、上記のデータについて提出してください。

✓ 市販のソフトウェア等を使用する方への参考情報

- ◆ 電子取引データの保存については、専用システムやソフトウェア等をご用意いただかなくても対応いただけますが、保存や検索などが効率的にできるソフトウェア等も販売されています。

- ◆ 要件を満たしたソフトウェア等か確認するための[認証制度](#)があります。

市販のソフトウェア等で機能要件を満たすと認証を受けた製品には、公益社団法人日本文書情報マネジメント協会（J I I M A）の認証マークが付されています。また、独自開発されるシステムを対象に税務署又は国税局に事前相談窓口も設けています。

電子帳簿保存法の取扱通達や Q&A については、国税庁ホームページ【<https://www.nta.go.jp>】

に掲載されています。詳しくは、[国税庁 電子帳簿保存法](#) で [検索](#)



国税庁

令和 3 年 11 月
(令和 3 年 12 月改訂)

編集 後記

◆ 第162号発刊にあたり、ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

◆ 特集では、「四国の元気な組合」として、四国四県を取組事例をご紹介します。今後の組合運営等にお役立て頂ければ幸いです。ご不明な点などがございましたら、お気軽に当会までお問い合わせください。

◆ 「ものづくりの達人」では、株式会社山文様をご紹介します。紙漉きに始まり、現在の紙加工へ。180年以上前となると、浦賀への黒船来航から幕末の動乱が始まる頃という時代背景だそうで、当社に限らず長い歴史のある会社の沿革などを直接お聞きすると、日本史に疎い自分でも何か壮大な物事に触れたような気持ちになります。この度は興味深いお話をお聞かせいただきありがとうございました。

◆ この年度末をもって定年退職となる先輩がお一人いらっしゃいます。今の直属上司であり、思い返せば私が中央会に就職した頃の頃、互助会長をしておられたこともあって諸々の説明を最初にいただいた方でもあります。色々助けていただきながら約20年、長い間お世話になったはずが、あっという間に過ぎたという感覚もあります。今も変わらないお人柄がそう思わせるのかもしれませんが、上司・部下の間柄も残り短い期間となり寂しく感じています。退職後もお元気で過ごしてください。ありがとうございました。

最後までお読みいただきありがとうございました。

徳島県中小企業団体中央会
<http://www.tkc.or.jp/>



vol. 04

令和3年度 第4号
(年間4回発行 通巻第162号)

組合活性化情報 中央会とくしま



四国霊場第八番札所 熊谷寺・山門の桜 水彩画/布川 嘉樹